AudioComm®

2.1ch(総合32W)アンプ内蔵スピーカーシステム

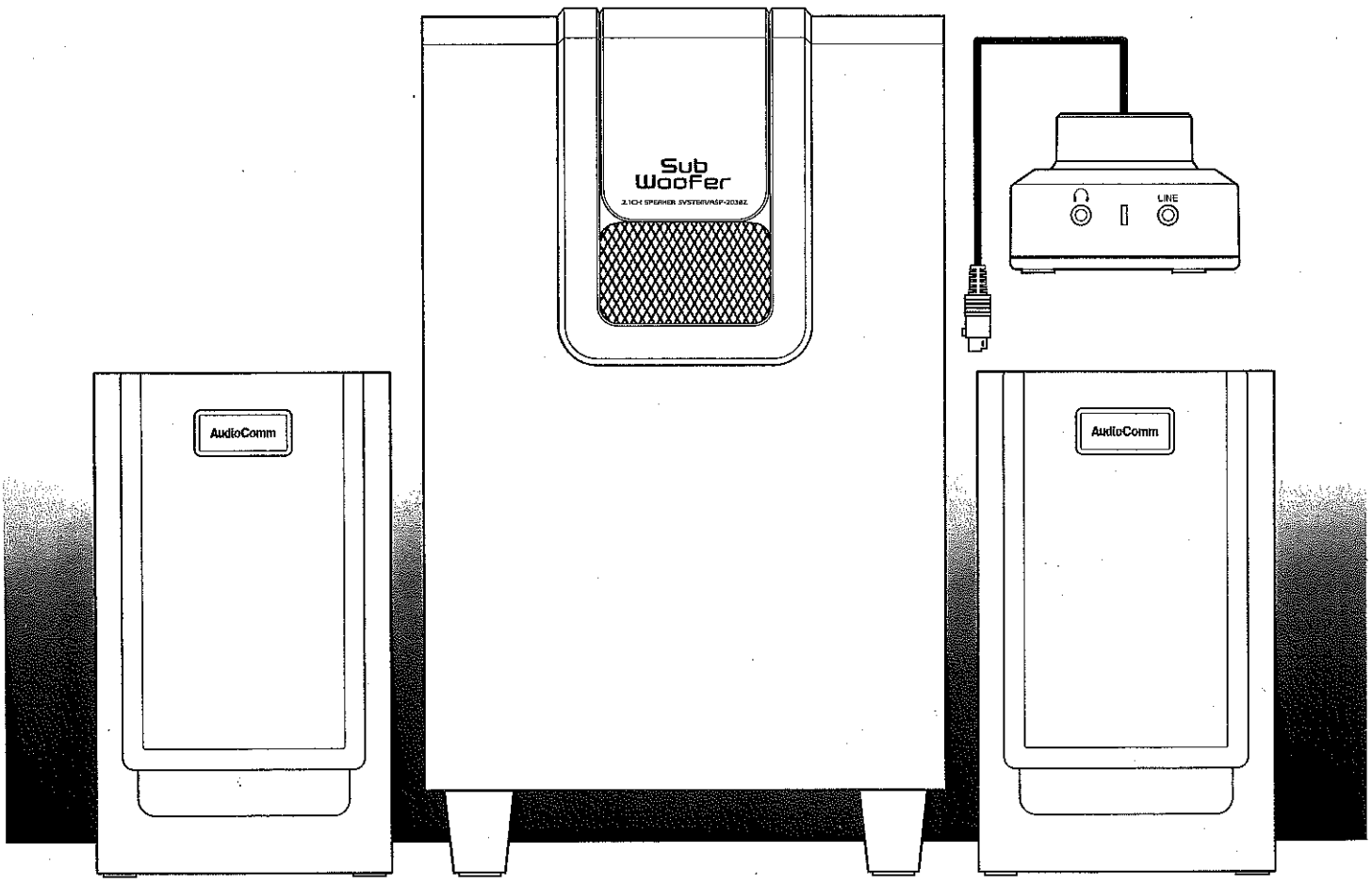
ASP-2038Z

このたびは、AudioComm
2.1ch(総合32W)アンプ内蔵スピーカーシステムを
お買い上げいただき誠にありがとうございます。

取扱説明書

⚠ 警 告 **電気製品は安全のため注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。
この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にご使用ください。なお、お読みになられた後は、
ご使用時にいつでも見られますよう大切に保存してください。



POWER WOOFER

AudioComm®

2.1ch(総合32W)アンプ内蔵スピーカーシステム

ASP-2038Z

安全にお使いいただくために

電気製品は正しく取り扱うことによって安全にお使いいただけます。間違った使い方は火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり注意事項を必ずお守りください。
注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって二段階に表示しています。

⚠警告 この表示の注意事項を守らなかった場合、死亡または重傷を負う可能性がある事を示しています。

⚠注意 この表示の注意事項を守らなかった場合、けがをしたり、物的な損害を受けたりする可能性があることを示しています。

⚠警告

●日本の家庭用電源で使う
電源コードのプラグは、交流100ボルト(AC 100V 50/60Hz)につないでください。海外などの異なる電源電圧で使用すると火災や感電の原因となります。

●電源コードやプラグを傷つけない
電源コードやプラグの損傷による火災や感電を防ぐために次のことをお守りください。
- 電源コードやプラグを加工したり、傷つけたりしない。
- 無理に曲げたり、ねじったりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 電源コードの表面のビニールが溶けるのを防ぐため熱器具に近づけたり、加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜く。

●濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。
感電の原因となることがあります。

●本体を分解、修理、改造しない
故障、火災、感電の原因となります。

●本機内部に異物や水分を入れない
金属類や燃えやすいもの、水分などが内部に入ると、感電や火災の原因となります。
- 通風孔から金属や燃えやすいものを内部に差し込んだり、落とし込んだりしない。
- 本機の上に水の入った容器や小さな金属類(安全ピンやヘアピンなど)を置かない。
- 水がかかるような場所では使用しない。特に窓際で使用する場合、雨天時や降雪時または結露等に注意する。

●雷が鳴りだしたら、電源コードやプラグに触れない
感電の原因となります。

●修理のご依頼を
故障のまま使い続けると、火災や感電、けがの原因となります。

●次のような症状が見つかったら
- 異常な音やにおいがする煙がでている。
- 内部に水や異物が入った。
- 本機を落とした、本機の一部を破損した。
- 正常に動作しない。
- 電源コードやプラグに傷がある。

↓

電源を切り、電源コードを家庭用コンセントから抜き、お買い上げの販売店、または、弊社修理窓口に修理をご依頼ください。

⚠注意

●安定した風通しの良い場所に置く
置き場所や置き方が悪いと、落下によるけが、内部温度の上昇による発火やけが、感電や故障の原因となる事があります。
- ぐらつく台や傾いた台、毛足の長い絨毯や布団等の不安定な所に置かない。
- ほこりの多い所、油煙が当たるところに置かない。
- 暖房器具のそばや、直射日光が当たる所、窓を閉めきった自動車の中(特に夏季)等の高温になる場所に置かない。
- 布をかけたり、密閉したラック等の中に入れない。
- 振動の強い場所に置かない。
- 腐食性ガス(亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアなど)の発生する場所に置かない。
- 極端に高温、低音、温度変化の激しい場所に置かない。

●安全のため家庭用コンセントより電源コードのプラグを抜く
旅行等でしばらく使わない場合やお手入れをする場合、本機を移動させる場合は火災や感電の思わぬ事故を防ぐため、電源コードのプラグを抜いてください。

■ご使用上の注意

●キャビネットの上に重い物を置かないでください。
●電子楽器等で極端に歪んだ信号を大音量で鳴らさないでください。スピーカー破損の原因となります。
●本機は防磁設計ではありますが、モニターやテレビ画面が歪む場合には少し離してご使用ください。
●録音したテープ、キャッシュカード、定期券など磁気を使用した記録媒体を本機のスピーカー部に近付けないでください。大切な磁気情報に影響を及ぼす場合があります。
●接続する機器の取扱説明書をよく読み、その指示に従ってください。また、接続コードは指定のものをお使いください。

お手入れの仕方

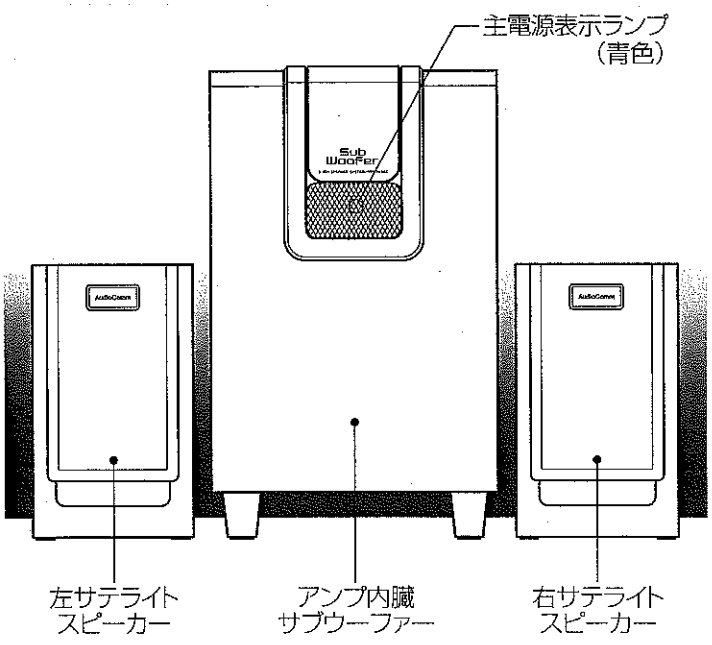
キャビネットの汚れは柔らかい布で乾ぶきします。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液をしめらせた布でふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので使わないでください。
殺虫剤やヘアスプレーなどがかからないようにしてください。変色や変質の原因となることがあります。

故障かな？と思ったら

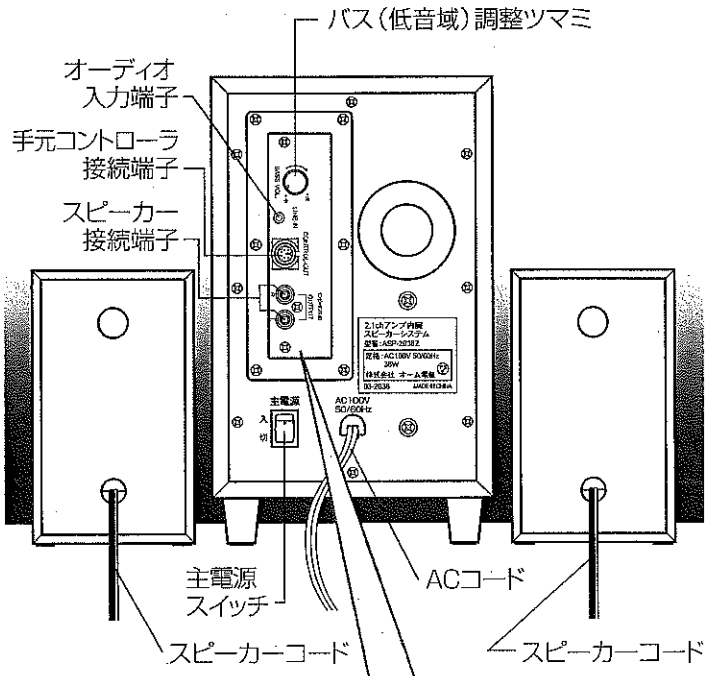
チェック項目	
音が出ない	●電源プラグが、コンセントにしっかり差し込まれていない。 ●本体背面の主電源スイッチが切になっている。もしくは手元コントローラの電源スイッチが切れているか、主音量が最小になっている。 ●スピーカーコードの接続がはずれている。 ●接続コードによるそれぞれの機器との接続がはずれているか、プラグが正しく接続されていない。。 ●接続している機器の電源コードがしっかり差し込まれていない。 ●接続している機器の電池が切れている。 ●接続している機器の電源が切れている。もしくは音量が最小になっている。
片側からしか音が出ない	●モノラル機器と接続されている。

各部の名称

本体(前面)



本体(背面)

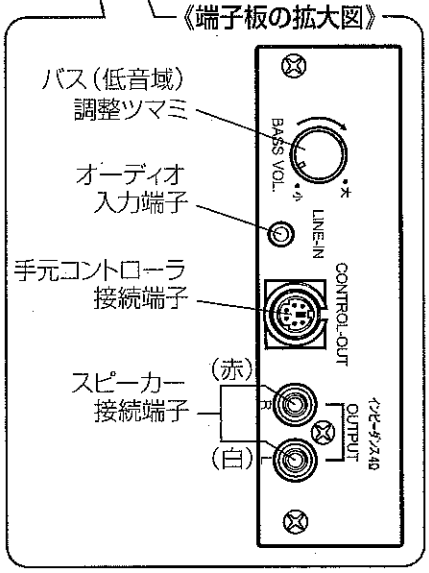


※主電源スイッチを入れる前に、全てのコードの接続を完了してください。

※本体背面の主電源スイッチを入れると、本体正面の主電源表示ランプ(青色)が点灯し、スタンバイ状態になります。
次いで、手元コントローラの電源スイッチ/主音量調整ツマミを右に(時計回りに)まわすと、電源が入り、手元コントローラ正面の電源表示ランプ(青色)が点灯します。

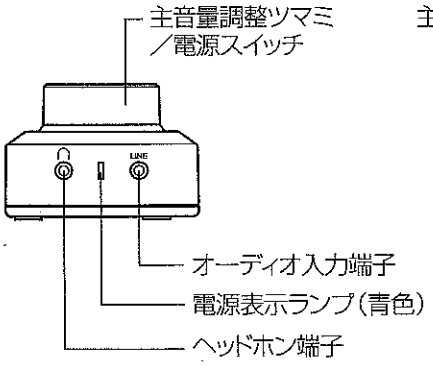
※電源を切る時は、上記と逆の手順で電源を切ります。
先ず、手元コントローラの電源を切ります。手元コントローラの電源スイッチ/主音量調整ツマミを左に(反時計回りに)カチッと音がするまで回して電源を切ります。手元コントローラ正面の青色の電源表示ランプが消灯し、スタンバイ状態になります。
次いで、本体背面の主電源スイッチを切ります。本体正面のサウンドポート奥の青色の主電源表示ランプが消灯します。

《端子板の拡大図》



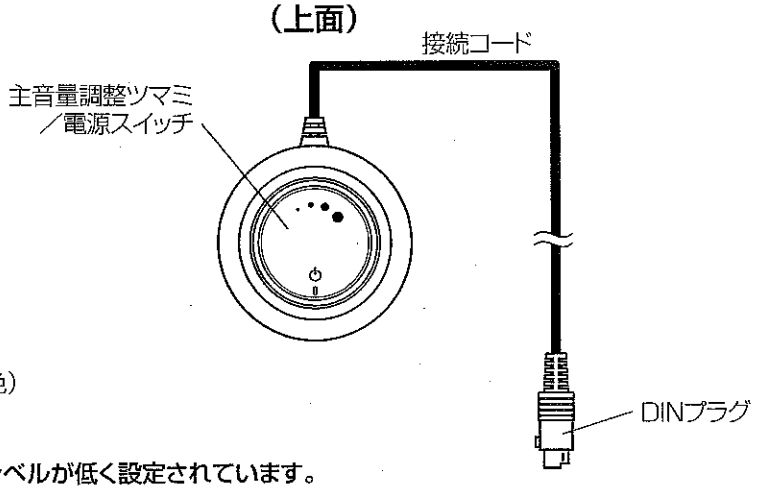
手元コントローラ

(正面)



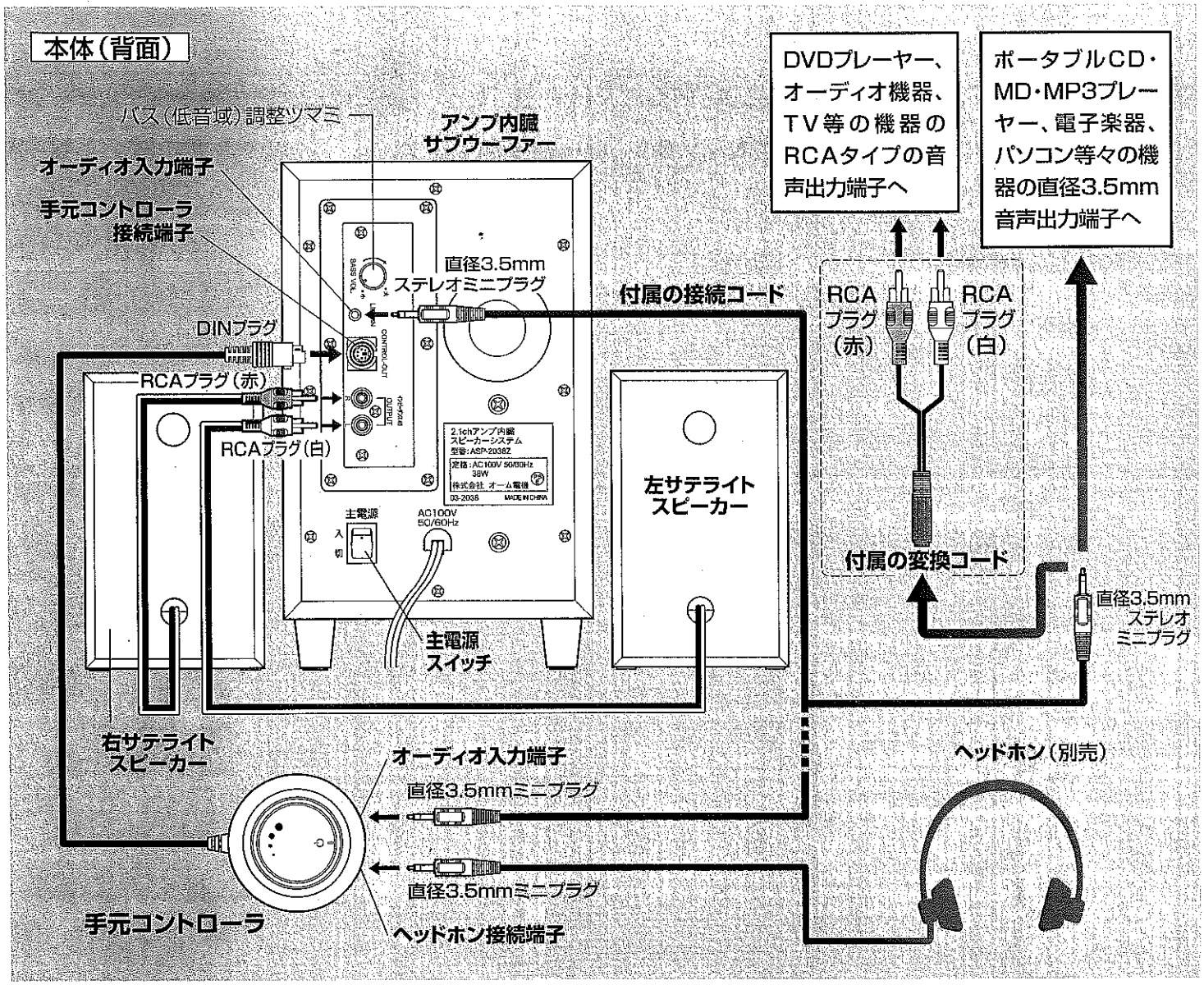
注意: 回路構成上ヘッドホン出力レベルが低く設定されています。ヘッドホンをご使用の場合は、接続される機器のヘッドホン端子でのご使用をお薦めします。

(上面)



注意: このプラグを外すと、スピーカーからの音は出ません。必ずこのプラグを接続してご使用ください。

結線図



■ご使用方法(結線図参考)

本体の電源を入れる前に行ってください。

①本体とスピーカーを接続します。

本体の背面にあるスピーカー接続端子(インピーダンス4Ω/OUTPUT)に、左右のサテライトスピーカーの背面に取り付けられたスピーカーコードを接続します。

接続方法は、右サテライトスピーカーの赤色RCAプラグを本体背面の右スピーカー接続端子(赤色)に、左サテライトスピーカーの白色RCAプラグを本体背面の左スピーカー接続端子(白色)に差し込んで接続します。

②本体と、付属の手元コントローラを接続します。

付属の手元コントローラからのコードに付いているDINプラグを、本体背面の手元コントローラ接続端子(CONTROL-OUT)に差し込みます。

③本体または手元コントローラと、ご使用の機器を接続します。

両端に直径3.5mmのステレオミニプラグが付いている付属の接続コードを使用します。

接続方法は、いずれかの直径3.5mmのステレオミニプラグを本体背面のオーディオ入力(LINE IN)端子に接続します。

または手元コントローラ正面右側にあるオーディオ入力(LINE)端子に接続します。

もう一方の直径3.5mmのステレオミニプラグは、ご使用になる機器のオーディオ出力端子(直径3.5mmミニステレオ端子)に差し込んで接続します。

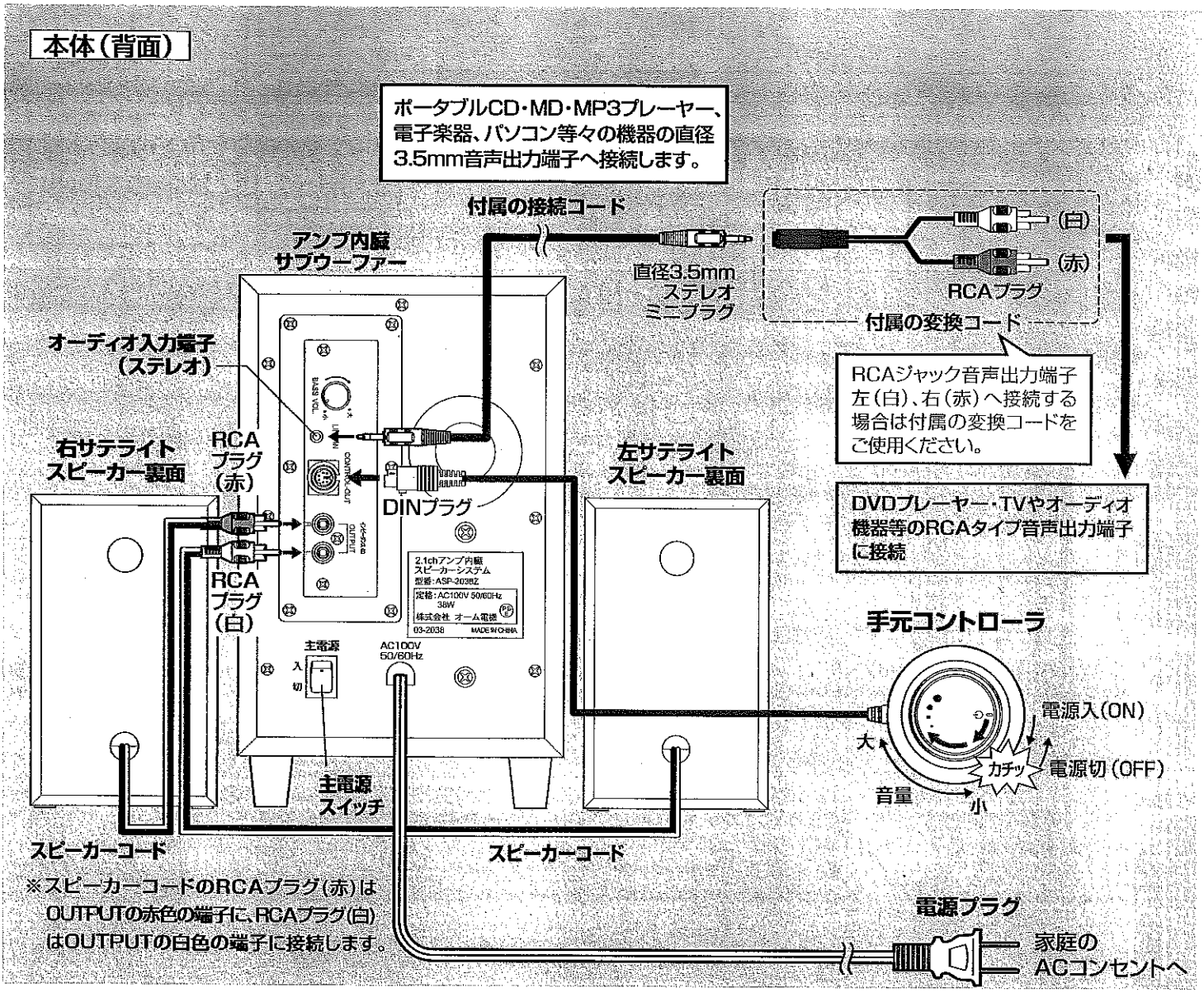
【RCAタイプオーディオ出力端子付き機器と接続する場合】

付属の変換コードを使用します。

接続方法は、一方の直径3.5mmステレオミニジャックを、本体に接続した接続コードの直径3.5mmステレオミニプラグに接続し、もう一方の赤色のRCAプラグを、ご使用になる機器の右オーディオ出力端子(赤色のRCAタイプの端子)に、白色のRCAプラグを左オーディオ出力端子(白色のRCAタイプの端子)に接続します。

※付属している接続コード以外にも、いろいろな音声出力端子に対応した接続コードをご購入いただければ、接続できる機種も増えます。

結線図



④本体の主電源スイッチが切(OFF)であることを確認し、本体背面から出ている電源プラグを家庭のACコンセントへ接続します。その後で、背面の主電源スイッチを入(ON)にします。
本体正面のサウンドポート奥の主電源表示ランプ(青色)が点灯し、スタンバイ状態になります。
次に、接続している機器の電源を入れて再生状態にします。

⑤手元コントローラの電源スイッチツマミ(主音量調整兼用)を右に(時計回りに)まわして、電源をONにします。手元コントローラ正面中央の電源表示ランプ(青色)が点灯します。

⑥手元コントローラの電源スイッチツマミをそのまま右に(時計回りに)まわすと、音量が大きくなります。左に(反時計回りに)まわすと音量が小さくなり、最後にカチッと音がして電源が切れます。また本体背面にはバス(低音域)音量調整ツマミがあります。このツマミを右に(時計回りに)まわすとバス(低音域)の音量が大きくなり、左に(反時計回りに)まわすとバス(低音域)の音量が小さくなります。お好みの音量、音質で豊かなサウンドの広がりをお楽しみください。

⑦スピーカー再生を終える時は、手元コントローラの電源スイッチ/主音量調整ツマミを左に(反時計回りに)カチッと音がするまで回して、電源を切ります。電源表示ランプ(青色)が消えて、スタンバイ状態になります。次いで、本体背面の主電源スイッチを切ります(OFFにします)。

⑧ヘッドホンを使用する場合は、手元コントローラの正面左側にあるヘッドホン端子に直径3.5mmのヘッドホンプラグを接続してください。手元コントローラの電源スイッチ/主音量調整ツマミを操作してお好みの音量に調節してください。

※ヘッドホン使用時は、スピーカーからの音は出ません。

※オーディオ入力は、本体背面のオーディオ入力(LINE IN)端子または手元コントローラにあるオーディオ入力(LINE)端子のどちらかに接続コードの3.5mmステレオミニプラグを差し込んで接続してください。両方のオーディオ入力端子に機器を接続し再生した場合、手元コントローラの接続が優先されます。

おもな仕様

定格出力：総合32W
（サブウーファー16W+サテライトスピーカー8W＋8W）
スピーカー：サブウーファー 口径133mm　6Ω
：サテライトスピーカー 口径68mm　4Ω
周波数特性：サブウーファー 60Hz～180Hz／
：サテライトスピーカー 180Hz～20kHz
スピーカー仕様：防磁型ユニット
電　　源：AC100V 50/60Hz
消費電力：38W
寸法・質量：サブウーファー
（幅160×高263×奥行205mm・約2.8kg）
（突起物含まず）
：サテライトスピーカー
（幅91×高154×奥行95mm・約0.45kg）
×2
（突起物含まず）
付属品：手元コントローラ（コード長:約1m55cm、DINタイプ接続プラグ付き　1個）
：接続コード（直径3.5mmステレオミニプラグ+直径3.5mmステレオミニプラグ　1本）
：変換コード（直径3.5mmステレオミニプラグ⇔RCAプラグ　1本）

※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。
それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理窓口にご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。
お買い上げの販売店、または弊社修理窓口にご相談ください。